

## 1.長期成長ビジョン

当社は売上高100億円越え（2030年4月期）を目指し、足元需要が拡大している冷凍おせち市場の強化および、持続的な収益獲得のために、冷凍食品の最適な製造体制の構築、海外への販路拡大を目指す。

### 長期成長ビジョン（目指す姿・ビジネスモデル）

■ 目指す姿：～世界の食卓を豊かにする～

#### ■ ビジネスモデル

##### ✓ 冷凍おせち事業の拡大・高付加価値商品の製造拡大

- 当社のおせち事業（売上高）は冷凍おせち事業を中心に2020年から2024年にかけて**CAGR13.1%で成長**。他社の事業撤退や縮小、おせちをつくる家庭の減少、ECサイトの発展により、シェアを順調に拡大。**直近、冷凍おせちの需要増加に対し、現在の生産設備では生産能力が不足**するため、設備投資の実施が急務。一方で、少子高齢化により**国内市場は長期的には成長が伸び悩むことが予測されるため、日本食ブームが発生している海外での早期市場開拓、高付加価値商品の開発によるコスト構造の改革が必要**。世界におせち文化の浸透を目指す。

##### ✓ 冷凍食品事業（弁当・スイーツ）の強化

- おせちの製造は4月から12月に行われており、1月から3月までは工場が未稼働。**おせちの製造が出来ていない期間を有効活用するとともに、引き合いが増加し、市場が急速に伸びている冷凍食品（弁当・スイーツ）の製造を強化し、企業として持続的な成長、通年を通した売上の創出を目指す。**

##### ✓ 労働生産性・収益性の改善

- 補助事業により**省人省力化の設備を整備し、抜本的な生産環境の改善、コストの見直しを行うことで、利益率を大幅に向上する**

### 会社全体の売上成長目標（2030年4月期：売上目標112億円）

- 売上高成長率：16.3%
- 売上高増加額（2025年4月期から2030年4月期）：+50.6億円

### 会社全体の賃上げ目標

- 1.7%/年（直近年度～基準年度）
- 従業員：6.8%/年、役員：6.5%/年（基準年度～事業化報告3年目）

### 外発的動機

#### ■ 冷凍おせち市場の拡大

- おせちは「つくる」から「買う」時代へシフト。ECサイトによる販売増加により**冷凍おせちの需要は拡大**
- おせちの種類が多様化
  - － 若者のおせち離れを防ぐための推しおせちや、インバウンド需要や高級志向ニーズへ対応したフレンチおせち、中華おせちがトレンド
- 小規模事業者は事業撤退や縮小が進行

#### ■ 冷凍食品市場の拡大

- ECサイトの普及やコロナの巣ごもり需要増で、冷凍食品市場が拡大
- **冷凍弁当・冷凍和惣菜は仕出し弁当製造事業者の衰退により引き合いが増加**
- **冷凍スイーツは函南町のふるさと納税への協力の引き合いがある**

#### ■ 海外での日本食ブーム

- 海外で日本食の人气が高まっており、**ホテル・百貨店などから海外向けの冷凍おせち・弁当・和惣菜の引き合い・OEMの相談が増加**

### 内発的動機

#### ■ 国内外の需要に応える

- 当社は明治38年の創業以来、食を通じお客様の想いを形にしており、今後もこれまでに積み上げてきたノウハウを活用して、**お客様のニーズ（高付加価値のおせちの開発、冷凍弁当・冷凍和惣菜・冷凍スイーツ販売など）に応えたい**
- また、日本の食文化を海外に広めることで社会に貢献したい

#### ■ 企業としての持続的な成長

- 当社の冷凍おせち事業はCAGR13.1%で成長しており、現状のままでは市場の需要に対して供給が追いつかないため、**設備投資による増産体制の構築が急務**になっている。また、**主力である冷凍おせち事業は現在は好調ではあるものの、国内事業においては長期的（10年後）には、市場成長が鈍化する見込みのため、需要が見込める海外への展開、市場が伸びている冷凍食品（弁当・和惣菜・スイーツ）事業の拡大を進めていきたい**

2.補助事業の概要

補助事業により冷凍おせちおよびその他冷凍食品の生産能力を強化し、通年で工場を稼働できる体制を構築する。また現在ではほぼ手作業の工程を自動化することで、労働生産性の向上、6.8%/年の賃上げを目指す。

補助事業の  
背景・目的

- 本補助事業では冷凍おせち・弁当・スイーツの需要増への対応・工場の最適な生産体制の構築により、企業としての持続的な成長を目指すため、これらの生産体制の強化を行う。
  - 現在、当社の冷凍おせちの引き合いは増加しているが、生産設備の不足により機会損失が発生。また、ホテル・百貨店・自治体などから冷凍食品の生産に関する製造の相談が来ているものの設備が不足し、需要に応えられていない
  - おせちは季節商品であり、1～3月は工場が未稼働なため、工場を通年で稼働できるようにしたい
- 増設した工場には、AIやIoTを活用した設備や大量生産可能なラインを積極的に導入することで、労働者の負担を減らすとともに生産能力を高め、労働人口の減少に対応するとともに、収益の向上を目指す
  - 現在、おせちやスイーツは手作業での作業がほとんどで、自動化への対応が急務

事業費  
(補助額)

21億円  
(5.0億円)

設備投資の  
内容

- 概算費用内訳
  - 建物の新設：5.1億円
  - 製造設備：9.9億円
- 設備投資の内容
  - 冷凍おせち・冷凍スイーツ、冷凍弁当の生産体制の強化
    - 現在引き合いが来ている国内外の需要へ対応可能
- その他に、見込める効果
  - 作業の自動化による労働者への負担軽減、生産性の向上
    - 現状より生産量は5倍に対し、人員増加は約2倍での対応が可能
  - 収益性の向上
    - 工場の通年稼働、大量生産が可能になり、労働生産性の向上、コスト削減が見込まれる



目標値

項目	2027年4月度 (基準年度)	2030年4月度 (基準年度 + 3年後)
労働生産性 (単位：万円/人)	956	2,159 (年平均上昇率 + 31.2%)
従業員1人あたり給与支給総額 (単位：万円/人)	349	425 (年平均上昇率 + 6.8%)
役員1人あたり給与支給総額 (単位：万円/人)	-	-
補助事業に係る従業員数 (単位：人)	44	98